

教員の資質能力向上に係る特配（CT 特配）活用推進事業報告書

館林市立第十小学校

1. 研修のねらい

- (1) 日常の学校業務や教育活動に関する研修を行うことにより、若手教員の指導力や実践力の向上を図るとともに、研修を行う側の中堅またはベテラン教員の研修意欲の持続や資質能力の向上を図る。
- (2) 研修を通して、職員間のコミュニケーションを深め、人間関係や信頼関係を築いていくことにより、職員同士の結束を強めるとともに、職務に関して相談しやすい環境をつくる。

2. 本校の研修構成

本校の研修の企画運営は、主に研修主任とコアティーチャーの2名が行っている。研修主任は「授業改善研修」を中心に行い、コアティーチャーは「メンター研修」や「OJT 研修」など「資質向上研修」を中心に分担してきた。「資質向上研修」を進めるにあたり、コアティーチャーは、研修主任や学力向上コーディネーター、初任研指導教員と相談、協力の下、一年間の研修を計画、実施してきた。

3. 本年度のコアティーチャーによる取組

(1) メンター研修

日時	研修名および講師	研修の概要（研修形態）
5/27	顔合わせ及び自己紹介 ◆コアティーチャー【村田】	メンター研修に関わるメンバーの自己紹介および本年度の活動の概要説明（話し合い）
6/19	子どもとの関わり方 ◆コアティーチャー【村田】 ◆アドバイザー【廣木】 ◆コーディネーター【高橋正・長谷川尚】	メンティーが実際に抱える「子どもとの関わりの中での悩み」を題材とした、子どもとの関わりについて（講話、話し合い、意見交換）
7/31	自校での地域資源の活用 ◆コミュニティ・スクールディレクター【田野入】 ◆コアティーチャー【村田】	本校のコミュニティ・スクール構想にある地域人材をはじめとした地域支援の活用について（講話、話し合い、発表）
9/3	不応児への対応 ◆スクールカウンセラー【中村】 ◆教育相談主任【小野寺】	現在、学級で対応している不応児を取り上げた、不応児への具体的な対応の仕方（講話、話し合い）
11/27	全国学力・学習状況調査を生かした授業づくり ◆学力向上コーディネーター【高橋正】	全国学力・学習状況調査の分析および児童への有効的な指導法について（話し合い、発表）

2/22	新しい教育相談 ◆教育相談上級資格保有教員【高橋正】	ヤングケアラーや LGBT など、最近の教育の中に出てくる新しい課題について (講話、ロールプレイ)
3/1	実践報告会 ◆コアティーチャー【村田】	本年度のメンター研修活動の振り返りおよび各自の実践内容の報告や情報共有 (意見交換)



職員間の人間関係ができてくると、研修の終わりに個人的に質問に行く姿も見られるようになった。

(2) OJT 研修

日時	研修名 (◆講師)	活動の概要 (研修形態)
5/27	個別の支援計画・指導計画の書き方 ◆特別支援コーディネーター【柿沼】	個別の指導計画の作成の意義を理解し、書き方の共通理解と有効的な指導計画の活用について (講話)
6/5	道徳授業づくりシートの活用 ◆令和元年度道徳教育推進教師【村田】	昨年度の校内研修の内容の情報共有および道徳授業づくりシートの活用の仕方について (講話)
6/5～9	心肺蘇生法 ◆養護教諭【中澤】 ◆体育主任【坂上】	救命処置の手順や方法について (DVD 視聴、実技演習)
7/7	新教育課程での評価 ◆教務主任【島田】	新教育課程移行に伴う、新しい評価の在り方について (説明)
7/16	SOS の出し方教育 ◆教育相談上級資格保有者【丸岡】	SOS の出し方教育に至った経緯および教育の進め方について (講話)
7/22	所見の書き方	所見の書き方について (講話、実践練習)

	◆初任研拠点校指導教員【懸川】	
8/18	アレルギー児童への対応 ◆養護教諭【中澤】	アレルギー児童への対応の仕方や本校のアレルギー児童について (講話、DVD 視聴、実技演習、情報共有)
12/24	プログラミング ◆情報主任【長谷川尚】	新学習指導要領に示されている「プログラミング教育」に関わる「micro:bit」「プログル」「Scratch」等を用いてのプログラミングについて(実践練習)
2/4	指導要録の書き方 ◆教務主任【島田】	指導要録の書き方について(説明、質疑)



個別の指導計画の書き方



アレルギー児童への対応



プログラミング

(3) コア通信「TRY」の発行

メンター研修の活動の様子等をまとめ、職員に配付することで
研修内容の情報の共有化を図った。



(4) 個別での対応

若手教員から個別に悩み相談を受けた際に、個々に助言や支援
を行った。

【例】難聴児童への対応、図工指導の在り方
不登校児童への具体的な支援の仕方
読み書きが困難な児童への個別支援方法
夏休みの課題回収の仕方など

(5) 学級への入り込み支援および助言

授業の空き時間を利用して、若手教員の学級への入り込みを行い、気付いたことに対しての助言や活動の支援を行った。

～そして何よりも、休み時間や放課後、職員室や廊下など、いつでもどこでも、日常での会話を積極的に行うことで、質問や相談をしやすい雰囲気づくり、良好な人間関係づくりに努めた。～

4. 成果と課題

(成果)

- (1) C4th等を活用し、全体に情報の共有化を図ることで、メンター研修にメンバー以外の教員が自主的に参加するなど、研修に対して意欲的な姿勢が見られた。
- (2) コアティーチャーとして日常的に若手教員に話しかけを行ったり、教室への入り込みを行ったりすることによって、気付いたことをすぐに声掛けすることができた。また、そのような関わりをもつことで、研修会以外の場でも質問や相談のできる雰囲気となり、廊下や職員室で気兼ねなく相談できる環境がつくられ始めている。
- (3) 若手教員が積極的に質問や相談をしてくれることで、コアティーチャー自身も刺激を受け、自ら学ぶ意欲をもつことができた。
- (4) 年齢層やキャリア段階にとらわれず、多くの教員が研修に関わっていた。特にベテランの教員が講師となり、様々な知識と経験を元に話していただいた研修は、とても実りの多いものとなった。
- (5) 研修に対して前向きに活動してくれる教員が多く、研修を通して職員間のコミュニケーションが深まった。今後も、よりよい人間関係を築きながら、「チーム十小」として、お互いが協力し合いながら職務に当たれるようにしていきたい。

(課題)

- (1) 研修に対してとても意欲的であった。今後は、研修で学んだことを実践し、振り返る場面を設けていけるとさらによい。
- (2) 十小のニーズに合わせた研修、若手がより自主的に取り組める研修、現在の学校教育に求められるスキル習得のための研修など、研修内容の精選や進め方の工夫を行う必要がある。
- (3) 本年度は年間を通しての活動の見通しがもてないままの活動となった。今後は計画的・継続的に活動することによって、より効果的な研修を行う必要がある。
- (4) 多忙な業務の中での研修であるため、内容と対象を絞り、短時間で効率のよい研修を行う必要がある。
- (5) 形式にとらわれた堅苦しい研修が多かった。今後は、座談形式での研修を取り入れたり、いつでもどこでも気軽に研修できたりする環境づくりに努めたい。